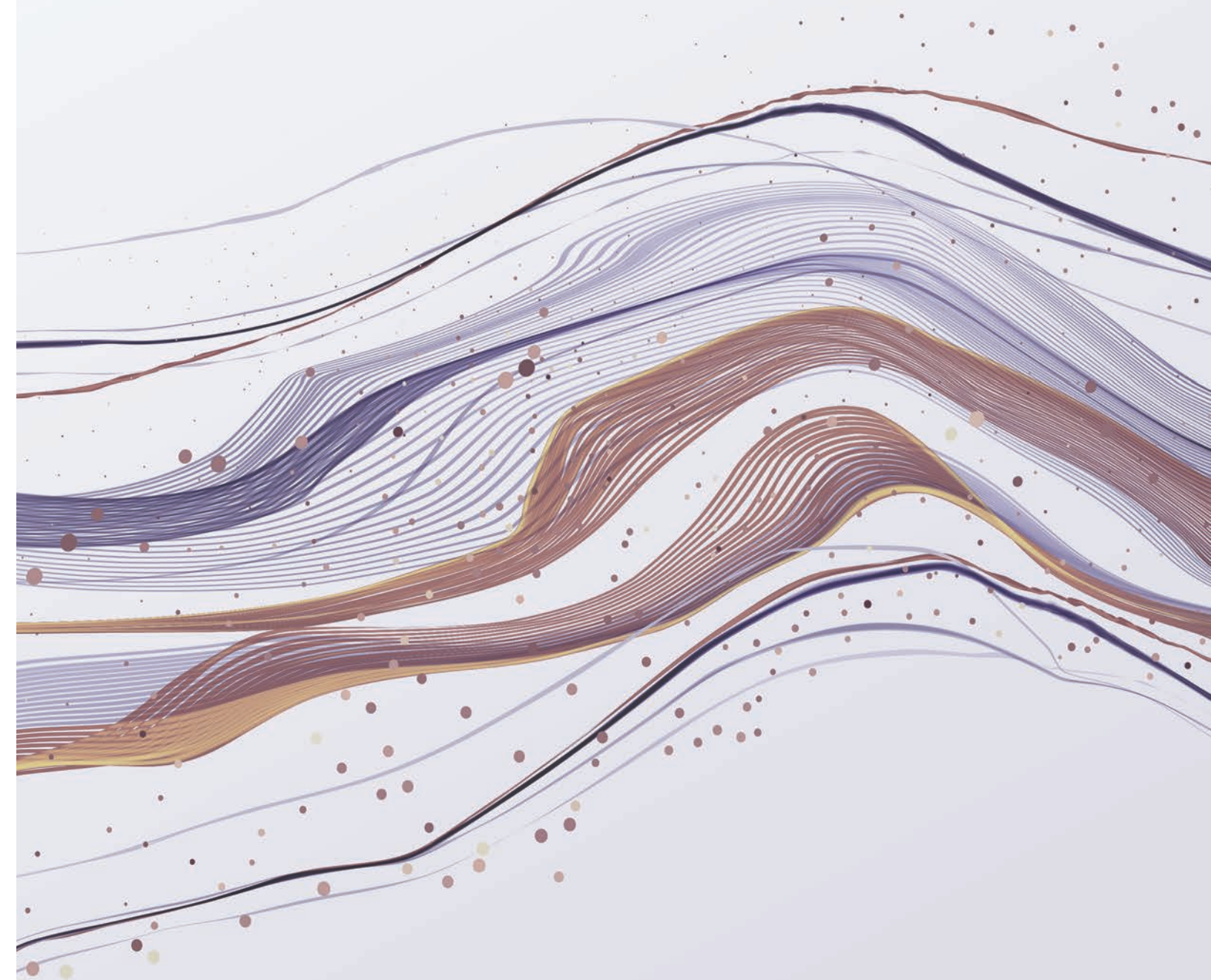


常設委員會報告



常設委員会報告



総務委員会報告

委員長 阿部 暢夫

令和4年度 総務委員会は、下記の10名にて構成されています。

- 委員長：阿部 暢夫(富士開発(株))
 副委員長：加藤 信治((株)松原工事事務所)
 委員：西部 雅英((株)ヨコタテック)
 委員：坂本 健二((株)東海ジオテック)
 委員：天木 亨(興亜開発(株))
 委員：鈴木 正道((株)フジヤマ)
 委員：駒田 泰士(協和地研(株))
 委員：土屋 靖司((株)富士和)
 委員：岩部 健司(不二総合コンサルタント(株))
 委員：山本 貢司(東洋地研(株))

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
 ・独占禁止法遵守講習会の開催
 ロ)新入会員の入会促進運動
 ハ)地質調査の資格試験に関すること
 ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
 ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
 ・地質調査技士登録更新講習会の実施
 ・地質情報管理士資格検定試験
 ・その他地質調査技士に関すること
 ニ)四支部協議会の実施
 ホ)会員相互の親睦会の実施
 ヘ)その他協会運営に関すること

以下に主な活動報告を致します。

今年度も新型コロナウイルス感染対策により活動が制限されるなどしましたが、主な行事は次の通りです。

●親睦ボーリング大会

今年度は新型コロナウイルス感染対策のため中止になりました。

●地質調査技士受験者対象講習会

令和4年6月24日 名古屋国際会議場
 受講者数：60名
 コロナ対策を十分に行い実施しました。

●第56回地質調査技士資格検定試験

令和4年7月9日 名古屋国際会議場
 受験者数：124名

検定試験結果

部門	受験者	合格者
現場調査	30	11
現場技術・管理	79	24
地質情報管理士	15	11
合計	124	46

●令和4年度 コンプライアンス講習会(5協会合同)

令和4年11月14日 名古屋ガーデンパレス

受講者数：180名 111社

講師：公正取引委員会事務総局 中部事務所
 経済取引指導官 勝上 一貴



●令和4年度 地質調査技士登録更新講習会

令和4年12月2日 名古屋国際会議場

受講者数：180名

講師：谷口 一平(東邦地水(株))
 津坂 喜彦((株)アオイテック)
 田中 史郎(富士開発(株))
 近藤 勉(川崎地質(株))

●四支部協議会

中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

●新春賀詞交換会・麻雀大会

今年度は新型コロナウイルス感染対策のため中止になりました。

●その他

今年度はコロナ対策のため、一部の行事が開催できず中止になりました。

委員会活動に対して、ご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



研修委員会報告

委員長 大久保 卓

令和4年度の研修委員会のメンバーは以下の10名で構成されています。

- 委員長：大久保 卓((株)大和地質)
- 副委員長：小川 博之((株)アオイテック)
- 委員：都築 孝之(日本物理探鑛(株))
- 委員：澤田 茂((株)総合開発調査)
- 委員：福本 延和(日特建設(株))
- 委員：小笠原朋弘((株)ティビー)
- 委員：伊藤 健二((株)日さく)
- 委員：中野強一郎((株)中野地質)
- 委員：大井 寿彦((株)東日)
- 委員：高橋 将也(村木鑿泉探鉱(株))

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- イ)協会の技術向上のための技術研究会・講習会の開催
- ロ)現場見学会による研修会の開催(隔年実施予定)
- ハ)技術講習会としての新春技術者懇談会の開催
- ニ)女性技術者活躍推進座談会の開催

以下に主な活動について報告します。

●令和4年度 女性技術者座談会の開催

- 開催日時：令和4年7月6日(水)
- 場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス
- 参加者：16名
- 議 題：女性が働きやすい環境づくり(働き方、就労時間等)について

昨年(令和3年度)は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止とさせて頂きましたが、今年度は4回目を開催する事が出来ました。今回も新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ソーシャルディスタンス及び三密を避ける為、会場を広い場所とし、検温、マスク着用にて実施しました。参加者全体がリラックスしたざっくばらんな討論を交わし、大変盛り上がりました。



写真-1 女性技術者座談会の様子

●ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会の開催

- 開催日時：令和4年9月10日(土)
- 会 場：桜華会館
- 参加者：37名(申込者38名,内1名欠席)

講 師：片山 浩明(東邦地下工機(株))
講習会の内容としましては、「ボーリングマシンに関する知識」「ボーリングマシンの運転に必要な一般的事項に関する知識」「関係法令」等について、7時間の学科教育を実施しました。

●令和4年度 全地連主催ステップアップ講習会

開催日時：令和4年11月17日(木)

会 場：名古屋国際会議場

この講習会は、全地連主催により3名の派遣講習により「地盤情報」並びに「地質リスク」について実施しました。当説明会は、発注機関へも案内を出し、国交省始め各県・市町参加者は36名、会員44名、合計80名の申込みがあり、当日参加者は68名でした。



写真-2 ステップアップ講習会の様子

●新春技術者講習会の開催

- 開催日時：令和5年1月27日(金)
- 場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス
- 参加者：43名(スタッフ含む)
- 講 師：沢田 和秀先生(岐阜大学工学部)

沢田先生は、インフラマネジメント技術並びに防災が専門で、今回は降雨の状況で変化する地盤の変状が顕著に表れる現象に対して調査を提案し、対策をどのように考えることが良いかについて講演頂きました。



写真-3 新春技術者講習会の様子

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員、女性技術者WGのメンバー及び会員各位に心から感謝申し上げます。

常設委員会報告



女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活動推進WG 岩崎 理代

1.ワーキングの構成

女性活躍推進ワーキンググループは平成30年度に研修委員会のもとで新しく発足され、発足から4年を迎えた。1名脱退後、新加入メンバー1名を迎えた新体制、以下7名のメンバーを中心に活動を行ってきた。

リーダー◎岩崎 理代((株)ダイヤコンサルタント)
 石原 聖子(中部土質試験協同組合)
 下山 友実(玉野総合コンサルタント(株))
 高見 幸恵(川崎地質(株))
 【新】畑中 麻緒(中央開発(株))
 平江 喜子(応用地質(株))
 三好 千春(東邦地水(株))

2.活動の概要

令和3年度のワーキングの活動は新型コロナウイルス感染症の影響で、対面で行うほぼすべての行事、WG活動を断念せざるをえなかったが、令和4年度の活動は徐々に対面での活動を再開することができた。

令和4年度の主な活動の内容は以下5点。

- ①女性技術者座談会の開催
- ②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加
- ③SNSでの情報発信
- ④女性技術者向けのメルマガ配信
- ⑤中部地質調査業協会HPに女性活躍推進WGのページ開設準備

なお、前年度からの継続活動である大学オープンキャンパスへのブース出展、女子中高生へ向けたミニ授業などの活動は新型コロナウイルス感染症の影響で入場者の制限が厳しく、断念せざるをえなかった。

①女性技術者座談会の開催

女性技術者同士のネットワーク構築や、働きやすい環境づくりに向けた問題抽出を目的として、女性技術者座談会の開催を計画した。詳細は3項。

②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加

理工チャレンジ(リコチャレ)とは理工系分野に興味のある女子中高生・女子学生に向けて進路選択を応援するため内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みで、理工系分野の大学や企業などが『リコチャレ応援団体』として紹介されており、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っている。

主に女子学生の夏休み向けに「リコチャレイベント」を企画するが、今年はまだ対面でのイベントが難しいと判断し、来年度に持ち越すこととなった。

③SNSでの情報発信

地質調査業知名度向上を目指した活動の一環としてより多くの若者や女性に業界のことを知ってもらうためにSNS(Twitter)での定期的な情報発信を行っている。情報の内容としては、地盤・地質・土質等幅広く、専門的なことから誕生石や化石についての話題、現場近くのスポット情報など学生に興味を持ってもらえそうな内容まで幅広く行っている。今年はフォロー数を増やし、記事更新率を上げ運用してきた。今後さらに更新内容を充実していきたいと思う。

応援の意味を込めて、ぜひフォローしていただきたい。
 (@chubu_geo_waw) / Twitter



図-1 TwitterロゴとQRコード

④女性技術者へ向けたメルマガ配信

本取り組みは、女性技術者座談会同様、会社や役職の垣根を越えて、横のつながりを形成することを目的に、去年度より始めた取り組みである。

メルマガの配信はWG発足後4年間で女性技術者座談会に参加していただいたことのある方を対象に配信し、身辺の女性技術者へメルマガ配信の登録を呼びかけるよう促している。

配信内容は、本WGの活動紹介や座談会への参加お礼に加え、専用メールアドレスへのよろず相談受付のお知らせを書き添えた。ワークライフバランスのとり方などで不安に思うことやWG活動への参加希望などなんなりとご用命いただければと思う。

四半期に一度の配信を目指し、引き続き活動を継続していく予定である。

⑤中部地質調査業協会HPに女性活躍推進WGのページ開設準備

中部地質調査業協会HPに女性活躍推進WGのページを開設させていただく予定としているため、バナーや公開ページの制作等の準備活動を行った。

主に活動の紹介やリコチャレやWG主催のイベント告知に利用する予定である。

3.女性技術者座談会の開催

3-1 女性技術者座談会の概要

女性活躍推進ワーキンググループでは2022年7月6日に「働きやすい環境づくりを目指して」をテーマに第4回女性技術者座談会を名古屋ガーデンパレス(中区)で開催した。会場では、手指消毒や検温、人数に対して広い部屋を用意し、アクリル板を設置するなどソーシャルディスタンスの確保など対策を行ったうえで実施した。

参加者はワーキンググループメンバー6名を中心に経験年数0年～30年という幅広い計18名の方に参加いただき、また今年は三重県建設業協会から女性活躍推進WGの活動に興味を持っていただき、視察にいられていたため参加していただいた。

会場には、数名分のロールモデルを掲示し、自由に閲覧できるようにした。この業界で就職してからの資格取得のタイミングや転職、昇職など、自身のキャリアパスやワークライフバランスを考える上での参考になると好評だった。

座談会の内容としては、業界で働く女性ならではの悩みなどを抽出、共有し、それらの対処策について話し合った。近年はコロナ禍での仕事の仕方など自分の仕事環境を見直す機会があったであろうことから、リモートワークや勤務時間についても議題とした。

今年は数年ぶりにワールドカフェ方式で実施し、この方式特有のリラックスした雰囲気や年齢や所属の垣根を越え、ざっばらんに意見を交わすことができた。



写真-1 座談会の様子

3-2 座談会での議論

会場での議論は女性技術者として働く上での問題点、その解決策やより働きやすくするための制度等について議論した。コロナウイルス感染症の影響で、近年多くの会社で新たな制度(時差出勤やフレックスタイム等)ができたため、それに伴った自分なりの働き方の見直しや今後のビジョンについて活発な意見交換が行われた。

毎年若年層からは、仕事量が多く、「休暇をとること=迷惑」になるのではないかとという空気を感じてしまうため、

今でさえ休暇を取ったりしづらい。結婚して子供を持ちたいと考えたときに、産休、育休となると、迷惑に思われているのでは?とってしまう。という不安が出る。

この意見に対して、いつもメンバーから発するのは、男女問わず病気やケガで休暇が必要な場合はあるし、休暇取得は当然の権利である。ロールモデルを例に制度をうまく利用し、ある程度割り切ってワークライフバランスを考えようと投げかけている。

これは、男女共同参画の意図にも準じていて、男女共に休暇を利用してワークライフバランスを考えようと促すことで、男性の家事介護育児への参加や趣味と仕事の両立を図り、心身ともに充実し就業意欲の向上などにつながることや、女性が社会進出しやすくなることなどが期待されると考えられている。

座談会の中で出た意見や業界への要望については、本紙特集ページにて詳しく記述する。



写真-2 参加者の集合写真

(大久保研修委員長を囲んで集合写真が恒例行事です)

残念ながら懇親会の開催は叶わなかったが、非常にお忙しい時期に今回の企画に参加いただいた皆様、座談会出席にご理解いただいた各社に感謝申し上げます。

4.今後の活動について

女性活躍推進ワーキンググループでは、来年度の活動として、女性技術者座談会の定期開催(年1回)と業界認知度の向上のため、女子学生向けのリコチャレイベントの開催やHPの更新、SNS(Twitter)での情報発信の充実、地元大学のオープンキャンパスでのイベントの開催や他の女性技術者の会との意見交換や交流を目指していく。

また、女性技術者座談会でのアンケート結果に応えるべく、現場見学会などの企画を進めていき、女性が働きやすい環境・制度を整備できるよう、協会への働きかけを随時行っていきたい。

最後に来年度こそは新型コロナウイルス感染縮小を願い、本WGのさらなる活発な活動ができることを祈る。

常設委員会報告



広報委員会報告

委員長 河原 弘明

令和4年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の10人のメンバーで構成されています。

- 委員長：河原 弘明(中央開発(株))
- 副委員長：小島 央彦(川崎地質(株))
- 委員：狩野 行宏(昭和設計(株))
- 委員：亀谷 祐幸(大和探査技術(株))
- 委員：佐藤永一郎((株)中部ウエルボーリング社)
- 委員：川原 久幸((株)テイコク)
- 委員：竹市 雅司((株)東京ソイルリサーチ)
- 委員：堀内 律輝(復建調査設計(株))
- 委員：藤森 弘則((株)増田地質工業)
- 委員：白川部竜也(松阪鑿泉(株))

(委員の順番は会社名頭文字のあいうえお順)

本年度の広報委員会活動は、令和4年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- イ)発注者に対する広報活動
- ロ)中部地方整備局との意見交換会
- ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
- ニ)全地連積算委員との連携
- ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
- ヘ)改訂版全国標準積算資料の広報宣伝活動
- ト)広報活動での「土と岩」配布

以下に、主な活動について報告します。

●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会のご協力を頂き、8班編成で7月上旬～8月下旬にかけて行いました。

一次官庁本局については、理事長、副理事長、広報委員長が訪問しました。

広報委員会が担当する愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人については、各班で事務所を訪問し、広報活動資料の説明・配布を行いました。

愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会は、各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・機関誌「土と岩」70号
- ・全地連作成「新たな時代の地質調査業発展ビジョン」
- ・防災協定の写し

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌70号は、創立60周年記念誌として作成したものであり、特別寄稿「弾塑性土質力学とは何か?」と題して名古屋大学名誉教授の浅岡先生からのご寄稿や中部ミニフォーラム2021に関する内容が示されており、優秀論文賞2編の方にも論文執筆いただいております。また、特別企画「自然災害と戦う!」では、災害の10年間をとりまとめた読み応えのある内容を記載しています。

同号には令和3年10月29日に国土交通省中部地方整備局と行った、「令和3年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の様態も報告しています。

広報活動の際に各発注者へ配布しました全地連作成「新たな時代の地質調査業発展ビジョン」は、地質調査業の10年後の将来に向けてというテーマで、地質調査業を取り巻く現状、課題と目指すべき方向、将来ビジョンについて示されています。是非ともご一読ください。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問にも関わらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「令和4年度地質調査業に関する中部地方整備局との意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度もできるだけ早期に開催できるように取り組み、令和4年10月27日に桜華会館にて開催し、整備局より貴重なご意見を賜りました。その様態は本誌でご報告していますので、是非ともご覧ください。

今後もますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。



技術委員会報告

委員長 深谷 雄二

今年度も昨年度に引き続き、ミニフォーラムの企画・開催や学協会行事への共催、協力を主な活動としてきました。

技術委員会のメンバーは、以下の9名です。

- 委員長：深谷 雄二(日本工営都市空間(株))
- 副委員長：松浦 好樹((株)ジーベック)
- 委員：浅川 実(日本エルダルト(株))
- 委員：今津 基洋(東海地質工学(株))
- 委員：片岡 泰(株)キンキ地質センター)
- 委員：勝眞 浩一(南海カツマ(株))
- 委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))
- 委員：土屋 国彦(土屋産業(株))
- 委員：広瀬 義純((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)

主な技術委員会活動は、以下の通りです。

- イ) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進
 - ・「中部ミニフォーラム2022」企画・開催(R4.10.12)
- ロ) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、事業協力
 - ・「地盤調査ボーリング、物理探査作業見学会」の開催(R4.4.28)

なお、全地連が主催する講演会の開催支援については今年度の活動はありませんでした。

■地盤調査ボーリング作業・物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催の「地盤調査ボーリング作業・物理探査～室内土質試験見学会」では中部土質試験協同組合と作業分担して実施しております。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となったので3年ぶりの開催となりました。



ボーリング作業見学会の状況

技術委員会では、ボーリングマシンを使用しての現場作業、原位置試験等の実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリング用ツールについても各種展示しました。

参加者は56名で、地質調査会社、コンサルタント会社、建設会社、学生などで、協会員各社からの参加は38名でした。

■中部ミニフォーラム2022

今年度は10月14日、名古屋国際会議場にて、昨年度と同様、新型コロナウイルス感染対策を施したうえでの開催となり、75名のご参加をいただきました。

今年度も昨年度と同様、若手・中堅技術者の発表力の向上に注力し、発表編数も昨年度の8編とほぼ同じの7編とし、「若手・中堅技術者の発表練習の場」という位置付けとしました。昨年度と同様、各発表内で質疑と講評を行い、発表12分、質疑・講評で8分の時間配分としました。講評は、事前に査読した技術委員が担当させていただきました。各セッションでは、講評に加え、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

特別講演は、「弾塑性土質力学とは何か?」と題し、浅岡 顕・名古屋大学名誉教授によるご講演をいただきました。本講演は、中部地質調査業協会60周年記念式典で予定していたもので、式典が中止となったため、今回実施することとなりました。

優秀論文発表者は、論文審査及び発表審査の結果、下記の2名に決定しました。

- ・「材料試験における試料の再利用が各種地盤材料特性に及ぼす影響：竹内啓介(中部土質試験協同組合)
- ・「仏像構造線破砕帯分布地域における斜面変状調査の事例」：今村泰基(東邦地水(株))



中部ミニフォーラム2022 発表会場

関連する学協会の行事への共催・後援については下記に示すとおりです。昨年度はWEBでの開催でしたが、今年度は対面形式や対面とWEBの併用での開催となりました。

■地盤工学会中部支部

- ・第31回調査・設計・施工技術報告会(R4.6.24)
対面およびWeb形式で開催
- ・第34回中部地盤工学シンポジウム(R4.8.8)
対面形式で開催

■日本応用地質学会中部支部

- ・応用地質学講座(土砂災害の疑問55出版記念講座(中部編)のご案内)(R4.12.9)
対面およびWeb形式で開催

常設委員会報告

防災委員会報告

委員長 大橋 大輔

令和四年度のメンバーは以下の8名です。

- 委員長：大橋 大輔((株)朝日土質設計コンサルタント)
 副委員長：武藤 英教(青葉工業(株))
 委員：御宿 洋二((株)興栄コンサルタント)
 委員：下原 甚介(国土防災技術(株))
 委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
 委員：岡野 直次((株)ランドテクト)
 委員：谷口 昇(丸栄調査設計(株))
 委員：齋 秀((株)東海建設コンサルタント)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

1. 中部地整との災害協定に基づく、事業者リストの更新作業
2. 「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」の構成員として、各種会議や防災訓練に参加
3. 令和4年度天竜川上流総合水防演習に参加
4. 震度6弱の地震を想定した防災訓練の企画・実施

1. 事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行いました。今年度は、登録協会員59社、本店・支店・営業所を合わせて計94事業所が登録され、登録派遣人員数は530名、ボーリング台数115台となっています。

2. 南トラフ対策戦略会議の構成員としての活動

令和4年5月19日第13回戦略会議(リモート会議)に出席しました。構成機関は、「中部圏地震防災基本戦略」に基づいて取り組みを進めるとともに、戦略会議や地震・津波対策アドバイザリー会議による情報共有・意見交換や南海トラフ巨大地震を想定した訓練等を連携して進めています。

3. 天竜川上流総合水防演習に参加

令和4年5月22日天竜川上流総合水防演習に参加しました。天竜川上流域における大規模災害を想定した演習・防災機器の展示等が行われました。



天竜川上流防災演習

4. 「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練をおこなっています。中部地方整備局管内で震度6弱の地震が発生し、協会事務局が被災したことを想定して9月27日に実施しました。

施設提供の協定により中部土質試験協同組合に災害応急対策本部を設置し、訓練当日は5県にまたがる登録会員94事業所に対し、PCメールで情報収集を行いました。

登録95社中79社(84.0%)が出動可能との連絡があり、メール連絡網は十分機能していることが確認されました。土質、地質、地すべり技術者合わせて183名、機長・助手121名、ボーリング機械70台が出動可能という結果でした。



防災訓練

5. ヘルメットの購入

協会保有のヘルメットを現在の安全基準を満たすもの買い替えました。今後、安全パトロール等に活用していきたいと思います。

以上が活動報告です。

全国に災害が多発する中で、中部地整との災害協定を軸に、中部土質試験協同組合との施設提供の協定締結や、地盤工学会中部支部との災害時相互協定の締結も行き、協会としての防災体制を構築してきました。

この協定を円滑にまわすためには、構成員のBCP体制の構築が不可避となってきています。

会員各社におかれましては、引き続き要請時への連絡派遣対応が円滑にできるよう社内防災体制の確立に引き続き努めていただきますようお願い申し上げます。



編集委員会報告

委員長 今井 良則

令和4年度の編集委員会は、下記の8名で運営してきました。

- 委員長：今井 良則(応用地質(株))
- 副委員長：富岡 伸芳((株)ダイヤコンサルタント)
- 委員：小川 満(明治コンサルタント(株))
- 委員：小暮 充範((株)グランドリサーチ)
- 委員：藤本 俊之((株)東建ジオテック)
- 委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
- 委員：小田 秀昭((株)建設コンサルタントセンター)
- 委員：阿部 卓也((株)岐阜ソイルコンサルタント)

今年度の編集委員会は、以下の活動を行いました。

- ①中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」70号の発刊・配布先の検討・配布と71号の企画・制作
- ②中部地質調査業協会のホームページの管理および更新・改良(ホームページワーキングを担当、ホームページワーキンググループの活動内容は別途掲載)。

●「土と岩」71号の企画・制作

60周年記念誌・70号の発刊を終え、業界の成長と発展を見据えて71号の企画を検討しました。

現在、少子高齢化による働き手の不足や育児・介護による働き方の多様化は大きな社会課題となっております。こういった社会課題の解決を図るため、国でもこれを推進するべく労働基準法や労働安全衛生法などの法改正を行い、これをバックアップしております。私たちの業界でも、こういった動向に準拠、対応が喫緊の課題となっております。

そこで、皆様方の働き方改革の一助になれば、という思いから、今号では「働き方改革」と「女性活躍」をキーワードに特集を組むこととしました。

特集記事では、会員企業の皆様が、実際に各々の現場で行っている働き方改革の事例を紹介していただくように企画し、会員企業の皆様に活用しやすいように、より現実感のある身近な事例として紹介していただくようにしました。

また、女性活躍については、これまでも「女性活躍推進ワーキング」の活動を本誌で毎年報告していただいております。今回、改めて特集記事として取り上げ女性技術者に元気を与えられればと企画しました。

●働き方改革と女性活躍について

働き方改革の会員企業の取組紹介については、サブテーマとして「時短・生産性の向上」「IT技術の活用」「現場環境の改善」「職場・雇用環境の改善」「余暇の過ごし方」の5つを取り上げました。様々な取組みがあるのかとは

と思いますが、皆様方の活用しやすい事例を紹介することを主眼にしました。また、最近ではコロナ禍により企業内や顧客、現場で様々な行動制限が伴うこともあり、私たちがこれまで培ってきた習慣や対応方法などを変更せざるを得ない状況も生まれてきました。こういった状況も相まって、働き方改革も推進せざるを得なくなってきた状況もあるかと思われます。是非とも、各社の事例を参考にさせていただき、こういった状況を打破していただければ幸いです。

また、女性活躍の特集記事でも、女性技術者の活躍する事例を紹介しております。働き方改革と同様に、皆様方に女性技術者の活躍状況を認知していただくとともに、働き方改革とも連携しながら相乗効果を上げていただければと思います。



●今後の取組みについて

本誌では毎号、読者アンケートを募っており、アンケートでいただいたご意見には、真摯に耳を傾け、分かりやすく、読みやすく、面白い記事をお届けするよう努力しております。読者の皆様には、「特別寄稿」や「特集記事」などの特集内容を一読していただき、今後の業界発展や業務に生かしていただければと思います。

今後も、皆様方に役立つ、分かりやすい記事の掲載を続け、一般の方々にも興味を持っていただける機関誌づくりを目指したいと思いますのでよろしく願いいたします。

令和4年度のワーキングの構成

令和4年度のホームページワーキングは、以下のメンバーのほか、中西副理事長、今井編集委員長が加わる構成で活動を行ってきました(中西副理事長は第4回のワーキング後に異動)。昨年度は、新型コロナウイルス拡大防止の観点から、担当ごとで活動し、必要に応じてメール・電話等で審議・検討するという活動でしたが、令和4年度は、コロナ感染状況等を見極めながら、主に対面による会議形式で審議・検討しながら活動しました。

令和4年度には委員の半数の交代がありました。これまで同様、協会の一体感醸成、協会ホームページの認知度向上を目指した活動とし、連携強化の一環として、静岡支部からのメンバーの参加も継続しました。

- 委員：宮尾 浩一(※1)：継続
- 委員：津坂 喜彦(※2)：継続
- 委員：黒田 了介(※3)：継続
- 委員：米田 英治(※4)：交代⇒佐藤 祥昭(※4)
- 委員：鈴木 優(※5)：交代⇒柴田 雅也(※5)
- 委員：小倉 直也(※6)：交代⇒中山 雄太(※6)
- ※1：応用地質(株) ※2：(株)アオイテック
- ※3：(株)グランドリサーチ ※4：川崎地質(株)
- ※5：基礎地盤コンサルタンツ(株)
- ※6：東邦地水(株)

旧委員の方々には、多くのご尽力をいただき、交代後も、適宜、活動をフォローしていただきました。さらに、米田委員には、長きに亘りホームページワーキングの活動を支えていただきました。ここに記して感謝の意を表します。

令和4年度の活動の概要

令和4年度のホームページワーキングは、計画した5回のうち4回を会議形式で行いました。

今年度最初のワーキングでは、今年度の活動に先立ち、昨年度にまとめた過去10年の活動報告をレビューしました。これにより、これまでの委員の種々の思いや、一貫して流れている“ユーザー目線”で“役に立つ”といった共通の思いを再認識しました。その思いを胸に、今年度の活動計画を検討し、注力する事項を出し合って活動しました。

今年度も、これまで同様、年度活動計画の議論、協会・会員企業の役員交代・移転等への対応、各支部活動のお知らせ、身近な地質スポット、歴史地震スポット等の追加、地質調査や協会活動にも関係深そうなトピック情報の収集・抜粋・掲示、ホームページ不具合の解消活動等を行ってきました。

このほかに、スポット的な活動として、ZOOM導入に向

けた情報収集、地質調査要領エッセンスの抽出、ヒヤリハット事例収集、他機関コンテンツへのリンク、セキュリティ強化対応、女性活躍推進ワーキンググループ活動紹介コンテンツの追加などを行いました。

以上のように、今年度の活動は、昨年、一昨年の低速運転から、一転して、加速運転に移行した感じとなりました。以降では、主な活動の一端を紹介します。

地質調査に関する基本的な情報の充実

以前実施したホームページ利用者アンケートでは、地質調査に関する基本的な情報の充実を希望されるご意見もいただいております。これに対応するため、過年度には「地質調査技術マニュアル エッセンス」というコンテンツをホームページに追加しました。この活動の続編として、今年度も、新しいコンテンツ(「地質調査要領エッセンス」)をホームページに追加しました。このコンテンツでは、『改訂3版地質調査要領 効率的な地質調査を実施するために』(一般社団法人 全国地質調査業協会連合会編集)を参考に、対象物ごとに、地質調査実施上のポイントを紹介しています。

地質調査要領エッセンス

このコンテンツでは、種々の地質調査技術について紹介しています。
 ◎紹介にあたり、有志により作成された資料を掲載しました。
 ◎なお、この資料は、下記参考資料のエッセンスを抽出したものです。
 詳細については、そちらをご覧ください。

参考資料：『改訂3版 地質調査要領 効率的な地質調査を実施するために』
 (一般社団法人 全国地質調査業協会連合会編集 平成27年9月18日 改訂3刷発行)

	【ポイントダウンロード】	【もっと詳しくダウンロード】
	ポイント	もっと詳しく
対象物・活用調査		
地質調査の目的と調査計画	📄	📖
建築物の地質調査	📄	📖
切土構造物の地質調査	📄	📖

種々の対象物に対する地質調査のポイントや概要を紹介したいとき、新しく入られた方の研修などでご利用下さい。

今後、“もっと詳しく”部分についても作成し、順次アップしていく予定です。

「女性活躍推進ワーキンググループ」コンテンツの追加

令和4年度には、「女性活躍推進ワーキンググループ」の活動報告の場を提供することを目的として、ホームページに「女性活躍推進ワーキンググループ」コンテンツの追加を行いました。トップページのバナーからジャンプできます。



このコンテンツの今後の運営も、「女性活躍推進ワーキンググループ」でも行えるよう、管理画面も合わせて構築しました。

一口メモの追加

一口メモについては、他のコンテンツに比べて、追加・更新が遅れておりましたが、今年度には追加を行いました。追加した項目は、次の通りです。

〈環境に関するもの〉

SDGs, 脱炭素社会・低炭素社会・カーボンニュートラル, グリーンインフラ, 地球温暖化と気候変動, 気候変動緩和策と適応策, 気候変動適応法

〈時事その他に関するもの〉

名古屋高速道路 拡充

今後も折に触れて、追加・更新をまいります。

身近な地質スポットの追加

身近な地質スポットについては、三重県三重郡菟野町の「御在所山」を、今年度追加しております。御在所山は、三重県と滋賀県の県境を南北に走る鈴鹿山脈の中央脊梁部に位置していて、鈴鹿山脈の主峰とも言われています。急峻な岩壁や斜面切り立った地形が特徴的です。山腹の地質は花崗岩質が多く、断層活動によって地表に露出した花崗岩が風化、浸食によりマサ化し形成された様々な奇岩、巨岩を見ることができます。初心者から上級者まで多くの登山愛好家に親しまれています。お近くに行かれた際には、お立ち寄り下さい。



写真左：“おばれ岩”：赤い点線部分に人あり

写真右：“地蔵岩”。いずれも、御在所山中腹にある。

ホームページでは、このほかにもたくさんの地質スポットを紹介しておりますので、是非、ご覧下さい。

身近な歴史災害スポットの追加

身近な歴史災害スポットについては、身近にある地震・災害の痕跡を理解することを通じて、次の災害に備えていただきたい、との思いから、紹介を続けてきています。今年度も、寄せられた情報(パンフレット)の追加を行ってきております

今年度は、このパンフレットの発刊が100号を達成した節目に当たりますので、これまでに紹介したスポットの振り返りが行われております。また、これまでに「歴史地震研究プロジェクト」の一環として構築・整備されてきた、“名大減災館 歴史災害コンテンツ”も紹介しています。このコンテンツには、碑や史跡について学びながらまちあるきを楽しむルートを紹介した「歴史地震(災害)探索まちあるきガイド」や、その発展形としての「災とSeeing」のホームページが紹介されています(当協会ホームページリンク集にも追加)。是非、ご覧下さい。

引き続き、ご支援・ご協力を

令和5年度の活動につきましても、これまで同様、皆様からのご意見、ご要望等を、できる限り活動に反映させる形で進めてまいります。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。